

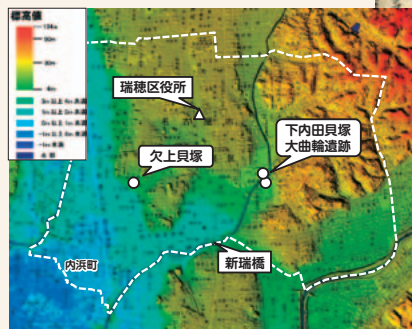
瑞穂区 歴史から学ぶ防災

瑞穂区の地形を知ろう

名古屋市のほぼ中央に位置する瑞穂区の地形は、東部の八事丘陵、中央部の瑞穂台地、西部の沖積低地へと移行しています。

瑞穂区には、縄文・弥生時代から人の住んだ跡が多く残っており、「大曲輪(おおぐるわ)遺跡」「欠上(かけがみ)貝塚」「下内田貝塚」など多くの遺跡が発見されています。そして、堀田通以西は海、井戸田付近は海に突き出た岬、瑞穂通に入り込んだ海には山崎川が注いでいました。

縄文時代には、大曲輪遺跡がある瑞穂運動公園付近が海岸線であったとされており、平安時代には、新瑞橋付近が河口であったとされています。現在ではその面影はありませんが、「塩入町」や「内浜町」などの海の近くであったことに由来した地名が今も残っています。



デジタル標高図(国土地理院 提供)に加筆



江戸時代の地図

今も残る海の近くや低地を示す地名

浮島町

かつてこの付近一帯は、沼地で潮の干満のたびに、小高いところが島のように浮いて見える土地ができ、これを浮島と呼んでいたことによると伝えられている。

内浜町

かつてこの付近一帯は、浜近くの霞(よし)野であったと伝えられている。また、この辺り一帯は、呼継の浜と呼ばれ、『厚覧草』には、この付近の様子が「入海にて呼継浜是なり……潮干には歩渡あり、汐満れば路なく呼び続ける故に名付たると也、近年は新田になり汐の上がらぬ堤を築、大道を造り左右は田畠なり」と記されている。

河岸町・河岸一丁目

河岸の由来は、昔、付近を川岸端(かしばた)と呼んでいたことによるとされる。「川」の文字を「河」に変えたのは水害に困った住民が、川を広くする願いをこめたものとも伝わっている。

塩入町

かつてこの付近一帯が海辺で、塩水が差し込んでいたことからつけられたといわれている。

船原町

鎌倉時代までは、現在の堀田通一帯は、伊勢湾の入江で全体が海辺になっていた。海上交通の便である船着場と波打ち際の原っぱの自然の情景からつけられたといわれている。

堀田通

この付近が低地で雨が降ると少しの雨でも水たまりとなり田が掘りようになったことからこの名がつけられたといわれている。



尾張名所図会に描かれた浮島

大地震による津波の可能性

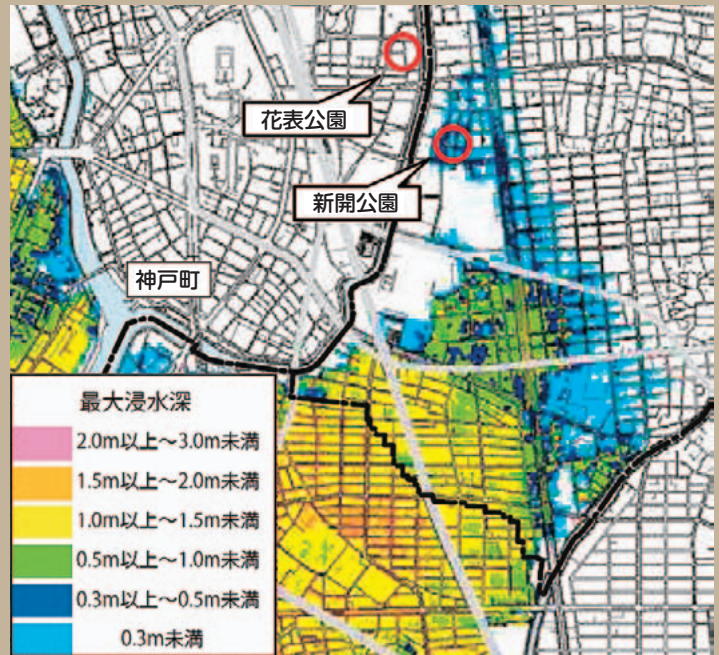
瑞穂区は、かつて海が入り込んでいた地域や、海の近くであった地域があります。こうした地域の一部は、南海トラフ巨大地震が発生した際の被害想定に示されているように津波が到達する可能性が懸念されています。

では、実際に過去の地震で津波が到達した事実があったのかどうか見ていきましょう。

1707年(宝永4年)に発生した宝永地震では、「熱田海甚だ潮高く進退不常。新屋川迄潮来る」など、津波が河川沿いに遡上したという記録が残されています。

1854年(安政元年)に発生した安政東海地震では、「熱田の海岸に高潮起こり、神戸町へ海水侵入、堀川へも汐差込み、材木、ひさしのこわれなど流れ逆流。堀川でも濁流山の如く上がる」という記録があります。

文献上では、熱田まで津波が到達したとされる記録が残されていますが、瑞穂区に津波が到達したという記録は確認できません。しかし、過去の文献に堀川まで津波が遡上したという記録があることや、高低差を考えると、標高が低い地域では、大規模な地震が発生した際には、津波ハザードマップが示すように津波による浸水を念頭に置いておく必要があります。



津波ハザードマップに加筆

過去に名古屋市に津波が到達した可能性のある地震

1096年(嘉保3年)	嘉保地震
1498年(明応7年)	明応地震
1605年(慶長9年)	慶長地震
1707年(宝永4年)	宝永地震
1854年(安政元年)	安政東海地震

地震に関する歴史年表 繰り返り発生する巨大地震

年 代		被害状況等
1707年(宝永4年)	宝永地震	名古屋の震度は5～6と推定。名古屋城内の建物が大きく損壊。有史で最大級の南海トラフ地震といわれている。
1854年(安政元年)	安政東海地震	名古屋の震度は5～6と推定。熱田に津波が侵入。
	安政南海地震	安政東海地震の翌日に発生。名古屋の震度は5と推定。
1891年(明治24年)	濃尾地震	内陸地震としては国内最大級。震源は岐阜県根尾村(現：本巣市)。名古屋市の震度は7と推定。瑞穂区の死者3名、負傷者6名、住家の全壊35棟。
1944年(昭和19年)	東南海地震	震源は紀伊半島沖。愛知県内の死者438名、名古屋市内の死者121名。瑞穂区内の死者2名、住家の全壊18棟。
1945年(昭和20年)	三河地震	震源は三河湾。愛知県の死者2306名。瑞穂区の死者1名。名古屋市の震度は5～6と推定。37日前の東南海地震に誘発された地震と推定。



かつて存在した「精進川」と水害

新堀川の左岸には、かつて「精進川」という川がありました。この精進川は川幅が狭く流域が屈曲していたため、大雨が降れば、川のはん濫による道路や田畑の浸水などの被害が度々発生していました。

このため、明治38年(1905年)に改修が始まり、明治43年(1910年)に現在の「新堀川」となりました。

かつての精進川の流路と、洪水・内水ハザードマップを重ねてみると、周辺よりも浸水の危険が高いことが見てとれます。このことから、精進川があった旧河道は、水が溜まりやすい場所であるという地形的な特徴が見えてきます。



あなたの街の洪水・内水ハザードマップに加筆

瑞穂区における伊勢湾台風の被害

伊勢湾台風の概要

伊勢湾台風は、昭和34年(1959年)9月26日夕刻、紀伊半島南端に上陸、そのまま半島中央部から名古屋市西方30kmの地点をかすめて、26日夜半富山湾に抜けました。上陸時の中心気圧は930mb、名古屋市における瞬間最大風速は45.7mを記録しました。

伊勢湾台風は名古屋地方にとって最悪のコースを通ったため、伊勢湾一帯にかつてない高潮を呼び起こしました。

また、前日から降り続いた雨により河川は増水、それが強風にあおられ、低気圧に吸い上げられた高潮と合致し、海岸堤防及び河口付近の河川堤防を寸断、名古屋市南部一帯を濁流の渦に巻き込みました。



伊勢湾台風翌日の空港線 (瑞穂土木事務所 提供)



伊勢湾台風で被害を受けた萩山中学校 (港防災センター 提供)

瑞穂区における被害状況

瑞穂区においても、台風による高潮の逆流のため、山崎川の堤防が荒崎町地内で決壊し、ここから流入した濁水のため低地域である御劔・高田・堀田の3学区の市電沿線から新堀川までの区域と井戸田学区南部及び穂波学区の大部分は床上浸水となり、その水深は1~2mに達しました。

この浸水は、翌日から次第に引きはじめ、夕刻までには大部分が減水しましたが、穂波学区内の東海道線沿線付近の5か町(浮島町・内浜町・明前町・南浜町と伝馬町の一部)は10月10日まで浸水状態が続きました。



山崎川仮締切工事 (愛知県 提供)

過去の豪雨等からみえる浸水被害

昭和27年(1952年)7月集中豪雨

穂波・堀田・高田・井戸田学区を中心に床上浸水1,092世帯・床下浸水5,532世帯もの被害をもたらし、瑞穂区では初めて災害救助法が適用されました。

昭和28年(1953年)9月台風13号

台風の中心は知多半島の南端及び日間賀島を通り北東に進みました。折悪く秋分大潮の満潮と重なり、瑞穂区内にも高辻から呼続大橋に至る堀田通・神穂通沿線及び弥富学区(天白区右岸白砂町付近一帯)などで多大な被害をもたらしました。特に牛巻付近は床上浸水し、水が胸まで達するところもありました。

平成12年(2000年)9月東海豪雨

9月11日～12日にかけて東海地方を襲った集中豪雨では、日最大1時間降水量97.0ミリ、最大日降水量428.0ミリ、最大24時間降水量534.5ミリと名古屋地方気象台観測史上最も高い値を記録し、都市型災害としては、過去に例を見ないほどの大規模な水害となりました。

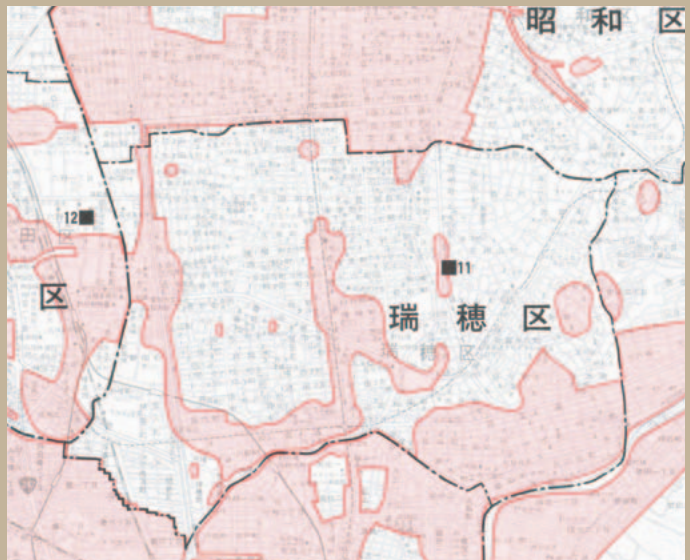
瑞穂区では、9月11日～12日にかけて総降水量571.5ミリ(瑞穂土木事務所)を記録し、中根・井戸田・高田学区を中心に、床上浸水485棟、床下浸水1,427棟の被害が発生しました。

平成16年(2004年)9月の集中豪雨

平成16年9月に発生した集中豪雨では、日最大1時間降水量が107mm(瑞穂土木事務所)となり、市内で床上浸水250棟、床下浸水1,584棟などの被害が発生しました。その約8割が瑞穂区で発生するという局所的な集中豪雨となりました。



平成16年集中豪雨 妙音通付近



平成12年名古屋市浸水実績図より



平成16年名古屋市浸水実績図より

[主な参考資料]

「瑞穂区誌」(瑞穂区制50周年記念事業実行委員会)、「東海望楼」(名古屋市消防局)、「なごやの町名」(名古屋市計画局)、「明応地震・天正地震・宝永地震・安政地震の被害と震度分布」(愛知県防災会議地震部会)、「明治24年10月28日濃尾地震文献目録」(愛知県防災会議地震部会)、「昭和19年12月7日東南海地震の被害と震度分布」(愛知県防災会議)、「昭和20年1月13日三河地震の被害と震度分布」(愛知県防災会議地震部会)、「東海豪雨水害に関する記録」(名古屋市)

発行／問合せ先

名古屋市瑞穂区役所区政部総務課

瑞穂区役所 名古屋市瑞穂区瑞穂通3丁目3番地 TEL. 052-852-9212

この印刷物は古紙・パルプを含む再生紙を使用しています。

掲載記事・地図及び写真等の無断転載・複製を禁ず

平成29年3月発行